



博士論文と投稿論文

—両者をどのように関係づけるか—

博士論文と投稿論文のバランスをどうとって研究を進めるか、計画をどのように立てたり変更したりしながら博士論文を完成させたのか、投稿・査読・修正のプロセスで何に気を付けるべきか。本講習会では本学修了者/本学教員を招き、こうした点について、執筆や査読の経験をふまえて話していただきます。

各自の研究・生活の実際と照らし合わせ、現実的かつ挑戦的な執筆計画を立てる際の参考にしましょう。

奮ってご参加ください。

- 対象者 女性本学大学院生（研究科、課程を問いません、男性も可）
- 日時・場所 **12月17日（水） 15:00-17:00 @本館28番教室**
- 参加申込先 キャリア支援室大学院部門（宮澤） miyazawa.kiyomi@dm.hit-u.ac.jp

登壇者

大林 一広 氏(法学研究科准教授)

2011年にジョージ・ワシントン大学博士課程修了。2010年より法学研究科講師、2014年より現職。

専門分野は政治学、組織論、国内紛争。主論文に、“Information, Rebel Organization, and Civil War Escalation: The Case of the Liberation Tigers of Tamil Eelam” (International Area Studies Review, 2014)、「反乱軍の組織と内戦後の国家建設——戦後和平期間に注目して」(『国際政治』、2013)、など。

加藤 圭木 氏(社会学研究科ジュニアフェロー(特任講師))

2014年社会学研究科博士後期課程修了。2012-14年、日本学術振興会特別研究員(DC2)。2014年より現職。

専門分野は朝鮮近現代史。主論文に、「朝鮮東北部・雄基港における交易の変容——19世紀後半から1920年代まで」(君島和彦編『近代の日本と朝鮮——「された側」からの視座』東京堂出版、2014)、「1930年代朝鮮における港湾都市羅津の「開発」と地域有力者」(『朝鮮史研究会論文集』49、2011)、など。

増田 都希 氏(言語社会研究科特別研究員/成蹊大学、武蔵大学非常勤講師)

2008年に言語社会研究科博士後期課程修了。

専門分野は18世紀フランス文化史。統治論としての作法論を研究。主論文に、「18世紀フランスにおけるホモ・エコノミクスの礼節論——モンクリフ『気に入られることの必要性和その方法』に見る作法と徳、そして欲望」(『史潮』72、2012)、など。

■ 問合せ：キャリア支援室大学院部門 特任講師 青木深

電話：042-580-8639（研究室直通）、e-mail: b101123x@r.hit-u.ac.jp